

## 應義 塾大学卒 業式

力 次 第

二〇二四年三月二十五日(月)

午後二時

日吉記念館

開

学 塾

学 事

報

告

歌

式

位 記

与

`

授

彰 状 授

式 表 辞 与

卒 塾 業生代 員 代 表 表 答 祝

辞

一九九九年三田会 辞 卒業二五年記念

寄附目録贈呈·挨拶

二〇二四年三田会結成

慶應連合三田会会長挨拶

慶應連合三田会大会実行委員代表紹介

讃 歌

慶

應

式

閉

(終了予定時刻 午後三時十分)

司会

演奏 應援指導部吹奏楽団 放送研究会

ワグネル・ソサイエティー女声合唱団ワグネル・ソサイエティー男声合唱団

田 正 文 作 曲詞

時 作

新潮寄するあかつきの風に鳴るわが旗を鬼に鳴るわが旗を 嵐の中にはためきて

文化の護りたからかに

強く雄々しく樹てんかな樹てんかな。この旗を

貫き樹てし誇りあり

慶ゖあ 應ゥ ゝ 慶應 きょう

> 學びの城を承け嗣ぎてまなり 春秋ふかめ揺ぎなき 日はめぐる丘の上むて

執る筆かざすわが額の 徽章の譽世に布かん 高く新たに生きんかな 生きんかな この丘に

慶ぱます 

理想の祖国を打ち建てんりょう

その名讃えん我が母校 を たまう 慶ぱり たまり 慶應義塾

光あふるょ三田 我等が校庭に集いたる 0 山。

三、

希望に充ちし若人はのぞみ

我等が若き力以て 独立自尊の城南健児どくりつじそん じょうなんけんじ

月去り星は移るとものきさに

夢に忘れぬその名こそゆめ、ねず

慶鳴 永遠に讃えん我が母校と ゎ たた 慶應 慶應義塾

栄えに輝く三田 0 山ま

意気と力と熱情

0

血潮に燃ゆる男の子等が

今ぞ戴く覇権の冠いまいただ はけん かんむり

叡智の光あきらかにない。 ひかり ていまれる炬火は

ゆくて正しく照すなり

遠く遙けく往かんかなながった。

わが義塾

究めていよい遠くとも

涯なきこの道を

往<sup>ゅ</sup> け

かょり火映ゆる丘の上

凱歌を挙げん高らかに

慶應 慶應義塾

いざや讃えん我が母校

應 讃

慶

歌

養 作作 曲詞

平

出

あい美しき三田の山 心に永くとゞまらん 第二の故郷三田の山だい こきょうみ た やま 共にむつみし幾年はとも